

巻頭言

学生とともに歩む大学図書館

図書館情報センター館長 二宮 克美



大学の図書館は、教職員ならびに学生や大学院生の教育と研究に資する施設です。大学自身が「知の拠点」ですが、大学図書館には次の3つの使命があるとされています。

1つは、「知の集積」です。書籍をはじめ研究雑誌、視聴覚教材、電子書籍などの収集と整理がその中心です。愛知学院大学図書館情報センターの蔵書数は、2015年度末現在975,000冊を超え、100万冊目前です。学術雑誌は多くの学問領域を網羅し15,312種類にも及んでいます。この「知の集積」を着実に果たしていきます。

2つ目は、「知の伝承」です。学問知を次の世代に伝えていく教育がその要となります。大学は学問の場であり、まさに教育の場です。教養部をはじめ9学部16学科、大学院8研究科で、日々熱心な教育活動が行われています。「知の伝承」の基盤として、図書館情報センターが有効に機能することを目指します。

3つ目は、「知の発信」です。「知」の受信にとどまらず、積極的に「知」を発信することが大切です。卒業論文をはじめ、大学院では修士論文、さらには博士学位請求論文として「知」の創造が期待されます。また教員がみずからの学問的成果として学術論文を専門雑誌に掲載することや、著書の出版が求められます。さらに「知の発信」の場として、社会的な貢献をすること、すなわち「知」の地域還元も積極的に実施していきます。

愛知学院大学には司書課程があり、図書館の専門職としての司書(ライブラリアン)の養成をしています。また、教員免許状に加え、学校図書館で専門的な職務に従事する司書教諭の資格も取得できます。

大学の図書館の主役は人です。図書館を管理し、運営する人のみならず教育や研究で利用する人、調べ学習やレポート作成、論文執筆のために利用する人、さまざまな人々が集う空間です。

学生図書委員会をつくり、上にあげた3つの使命を果たしつつ、図書館全体の向上に資する意見に耳を傾け、学生とともに歩む図書館にしたいと思っています。

